

|       |       |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 宮 城 県 |
|-------|-------|

学校の概要（平成15年4月現在）

|     |             |     |     |      |     |     |
|-----|-------------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 村田町立村田第一中学校 |     |     |      |     |     |
| 学 年 | 1年          | 2年  | 3年  | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3           | 3   | 3   | 2    | 11  | 18  |
| 生徒数 | 99          | 105 | 105 | 7    | 316 |     |

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育み，意欲的に学習する生徒の育成  
 - 興味・関心を引き出す指導過程と教材・教具の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・数 学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり，少人数指導の効果が期待できるため
- ・2年英語  
通年で少人数指導を実施することができる。1年では訓練の時間があり，3年では受験が控えているため
- ・国 語  
ワークシートの工夫，指導過程の中の自己評価・相互評価工夫改善をおこなう
- ・理 科  
基本操作の訓練を行うとともに野外観察をするなど地域の素材を生かした教材の工夫，科学史を取り入れた指導の工夫などをおこなう
- ・社 会  
思考力を高めるための工夫が生徒の興味・関心を引き出すという考えで，体験的・作業的活動や話し合い活動，身近な課題の設定などをおこなう

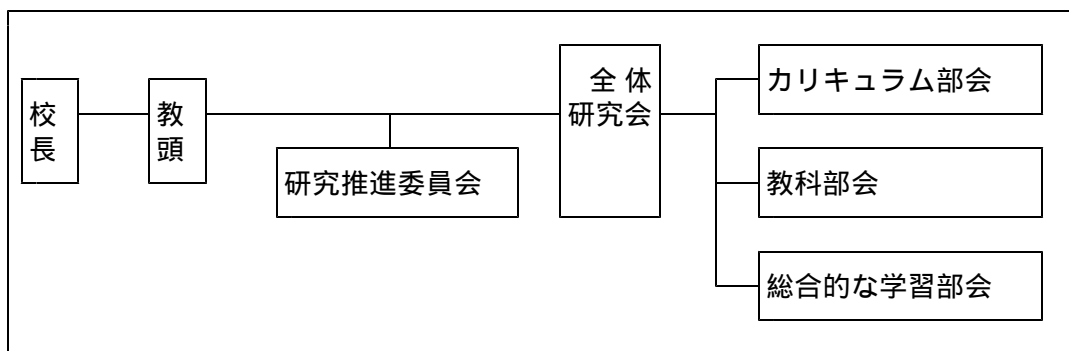
(2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ<br/>         確かな学力を育み，意欲的に学習する生徒の育成<br/>         - 興味・関心を引き出す指導過程と教材・教具の工夫を通して -</p> <p>研究の仮説<br/>         指導過程の改善により、学習への興味・関心を高め、基礎的・基本的学習の定着をはかり、確かな学力を目指し，意欲的に学習する生徒を育成する。</p> <p>研究の内容・方法<br/>         数学科<br/>         ・少人数指導やTTなどによる個に応じたきめ細かな指導法の工夫</p> |
|--------|--|

|  |   |
|--|---|
|  | <p>英語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導の習熟度別指導やTTなどによる個に応じたきめ細かな指導法の工夫改善</li> </ul> <p>国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を持って文章を読んだり書いたりする活動を設定し進める。</li> </ul> <p>社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力を高めるための工夫が生徒の興味・関心を引き出すと考え、体験的・作業的活動や話し合い活動、身近な課題の設定などを通して研究を進める。</li> </ul> <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本操作の訓練を行うとともに野外観察をするなど地域の素材を生かした教材の工夫、科学史を取り入れた指導の工夫などを通して研究を進める。</li> </ul> |
|--|---|

|                |  |
|----------------|--|
| 平成<br>16<br>年度 | <p>テーマ</p> <p>確かな学力を育み、意欲的に学習する生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 興味・関心を引き出す指導過程と教材・教具の工夫を通して -</li> </ul> <p>研究の仮説</p> <p>指導過程の改善により、学習への興味・関心を高め、基礎的・基本的学習の定着をはかり、確かな学力を目指し、意欲的に学習する生徒を育成する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>数学・英語に関しては15年度に引き続き、少人数指導の効果的な運用方法を研究し、意欲の喚起と確かな学力に結びつける。</p> <p>国語では「書くこと」と「読むこと」を関連させて、文章を的確に読み取ったり考えを深める教材の開発を進める。</p> <p>社会では「身近な課題の設定」「作業学習や演習などの体験活動の充実」を通して研究を進める。</p> <p>理科では「基本技能の定着，向上を図る教材」「体感に訴える教材」「科学的な教材」の研究を進める。</p> <p>学習の手引きを使った自学自習，家庭学習の定着化。</p> <p>朝の読書，マイプラン学習（教育課程外）の実施による，学習意欲の喚起。</p> <p>「総合的な学習の時間」を使った全校での「川柳」への取り組み。</p> <p>NRT，学習意欲に関するアンケートなどを通じた検証。</p> |
|----------------|--|

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- ・指導過程の工夫では、少人数指導（TT・習熟度別等）の工夫を行い学習内容により、どのような指導形態が適切か研究を進めた。少人数指導により発言・挙手・質問に対し積極的な生徒が多くなった。
- ・教材・教具の工夫
- ・「情報を目的に応じて読み取る力」をつけるための方法としてリーフレットを提案し作らせた。生徒は意欲的に取り組み工夫した作品を作り上げた。
- ・地域の素材を生かした教材の工夫では、「ザトウムシ」「カヤの実」などを教材化し、実験計画書作りなどで生徒の意欲の喚起した。

### 2. 今後の課題

- ・数学では少人数指導で研究を進めるが、受験期を控えた学年での対策、効果的なクラス分けの方法など、学習内容と指導形態のさらなる研究が必要である。
- ・英語では少人数指導が学習意欲に結びつかない面も見られ、学習内容と指導形態のさらなる研究が必要である。またクラス分けに関しては、どのような方法があるのか研究を進めていく。
- ・国語ではワークシートの工夫を通して「意欲的に取り組める言語活動の設定」を研究してきた。具体的にはリーフレット作りを通じた研究であったが、目標を明確に生徒に示す必要を指摘された。意欲付けと目標の明確化、評価との一体化を目指す必要がある。
- ・社会では身近な課題の設定により意欲や思考力の高まりが見られたが、意見交換や資料調べの方法に時間がかかりすぎるなどの問題点が見つかった。
- ・理科では実験計画書の作成、理科新聞の製作などを通し理科への興味関心を継続させている。今後は生徒の実態と変容の過程の把握をすすめさらに効果的なものにしていきたい。
- ・学校全体の取り組みとしては朝読書以外の活動はなかったが、学年全体・学校全体で取り組める効果的な活動を進める必要がある。

### 学力把握のための学校としての取組

1・2年生の数学と英語でNRT学力検査  
全校生徒を対象に学習に関するアンケート調査

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学年PTAでの普及活動  
ホームページ作成による広報

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下             4～6学級  
                          7～9学級            10～12学級  
                          13～15学級         16学級以上
- 【指導体制】            少人数指導             T・Tによる指導  
                          その他
- 【研究教科】            国語            社会            数学            理科  
                         外国語     音楽         美術         技術・家庭  
                          保健体育     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】            有     無